

宋拓魏鵞蘭高序

時古拓五種

羅振玉題



封面題簽

永和九年歲在癸丑暮春之初會

于會稽山陰之蘭亭脩禊事

也羣賢畢至少長咸集此地

以崇山有峻領茂林脩竹又有清流激

湍映帶左右引以為流觴曲水

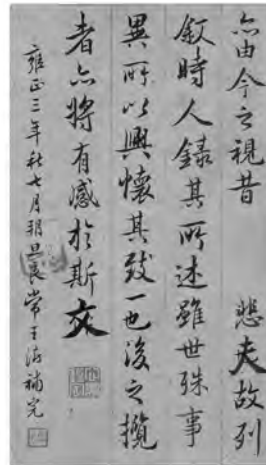


「落ち穂拾い記」 『宋拓神龍本蘭亭序』 ③

図版①



図版②



図版③



図版④



図版⑤



図版⑥



図版⑦



定時制高校の勤務であったので、翌日の午前中に関西に向かい、昼過ぎには予約した『宋拓神龍蘭亭序』を手にして、夕方には東京に戻った。この関西のSさんでは、それまでも目録注文で、『明拓雁塔聖教序』の鳥金拓本などの思いもかけないほどの、いい碑帖を入手していたが、今回の蘭亭序は外装から異なっていた。その『宋拓神龍蘭亭序』の全体を紹介しよう。

二重函であり、外函は飾り気のない杉、内函は桐で丁寧に面取りされた作りである。桐函の中に青系の色の布で作られた仕服にいられて納められていた。布製の仕服は中国製であり、その外函二種は日本製である。中身の折帖は、約縦29cm横14cm厚さ3cm、五百グラムほどである。折帖の封面(表紙)は、薄い板の周囲にやや硬い木で縁取りし、その中に色鮮やかな布地を貼りつけている。左端の題簽には、「宋拓神龍蘭亭序」と篆書で、続けて小字で「附古拓五種 羅振玉題」と書かれてある(図①)。封面を繰ると白紙の頁が続き、第三開目から最初の蘭亭序が始まる。永和九年の文字が、手習いで習った親しみのある趣の書風をしめしている。古い擦拓の、隔麻拓風の拓調である。拓紙の漉き目が、浮き出るように拓出されているが、文字の点画は鮮やかである(右主函版)。一頁に四行、左右の見開きで八行、第二、三開と本文は続き、第四開は、巻末の四行であるが、拓でなく、「亦由今之視昔」から最後の「斯文」までは、筆で補書されている(図②)。その横に同じ書風で小さく「雍正三年秋七月朔旦 良常王澐補完」と書かれている。おそらく、この部分は1763年(雍正三年)に書法家としても名高い王澐(1668～1743)は翦林、虚舟と号す。)によって補われたと推測される。次の第五開は、民国年間に京都に亡命していた偉大な金石学者である羅振玉(1866～1940)の小字の跋文が、第六開は、戦前の東洋史学者・内藤湖南(1866～1934)の跋文が書かれている。ここまでは、封面の題簽に書かれていた『宋拓神龍本蘭亭序』にあたる。

ついで題簽に付記されていたように五種の蘭亭序拓本が続く。内藤湖南の跋文の後に、やや淡い拓調の『神龍半印本蘭亭序』(天一閣本)(図③)、次いで少し字画が太い『定武本蘭亭序』(図④)、次に『集字本蘭亭序』が二種(図⑤⑥)、姜宸英(1628～1699、字は西溟、湛園と号す、明末清初書法家)の三頁にわたる跋文、さらにやや細身の字画の『定武本蘭亭序』(図⑦)、最後に『陽潘貴妃本蘭亭序』で終わる。題簽には五種とあるが、六種付されている。巻頭の『宋拓神龍本蘭亭序』をあわせて、全七種がこの一帖にまとめられている。次回は、入手後に知り得たこの帖にまつわる面白い逸話を簡単に述べよう。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

書道芸術院 令和の群像 (2020)



第72回書道芸術院展 「あさ日かげ」

善養寺紅風 書



善養寺紅風

35年ぐらい前になるでしょうか。展覽会場で、下谷東雲先生の細やかな作品を拝見し、あまりの美しさに魅了され、迷うことなく入門させて頂きました。先生は、穏やかな口調で丁寧な「いろは」から教えて下さいました。

何年かが経ち、東雲先生から優しいお言葉で「あなたは、これからは娘に指導してもらいなさい」と告げられ、以後群馬に戻られた洋子先生にご指導をいただいています。洋子先生からは古筆の大切さ、鑑賞することの大切さを教えられ、あちこちの美術館にも通いました。古筆は主に関戸本古今集、曼珠院古今集、針切等臨書して来ました。

平成12年、毎日書道展の出品に際し、古今集四首を何度も添削を受けながら仕上げました。結果、毎日賞を頂くことが出来ました。苦しんだ分、確かな充実感を覚えました。書けば歩みは遅くとも、一步一步前進出来るとの思いを強くしました。

最愛の夫を亡くし、1年が経ちました。常日頃書を応援し、見守ってくれた大きな存在を失い、途方に暮れてしまいました。それで

も私の生活の中に書が根づいていたのでしょうか。書道の部屋にいる自分が居ました。書に向かっていたれば無心になれる。今、先生や仲間の皆さん、亡夫の思い出に支えられ書が継続出来ていることを思うと感謝の念があふれてきます。

近頃は、稽古に通う弟子に若い人がふえました。漢字から始める人が多い中、かなや、研究科等も並行して書けるように指導しています。書の楽しさや、奥深さ、書いた事実は裏切らないこと、繰り返し書くことで自然と自分に身につくことなど、師が私を導いて下さるように次の世代へ一人でも多く、かなのすばらしさ、古筆のすばらしさを伝えたい。心をこめて生徒と共に歩みたく思っています。

今年、洋子先生の大きな作品を自宅の洋間に掛けました。東雲先生の作品とともに風情のある展示室になりました。お二人の先生の作品を鑑賞することが大きな原動力として、書きたい気持ち湧き上がります。尊敬する師のもとで自分を信じ、体力の持続する限り精進してまいります。

書のひろば

理事長 辻元大雲

(公財)書道芸術院臨時理事会 年会費減免など決定

6月20日書面にて審議を行った理事会で新体制が発足したが、現下の新型コロナウイルスの蔓延の影響による本院諸事業の遂行、会員諸氏の書活動への影響が深刻なことを勘案し、事業の見直し、年会費の減免他を検討するために7月4日に臨時理事会を開催した。結果として地方からの上京は断念せざるを得ない状況は変わらず、止むを得ず書面にて検討を行い、以下の通り決定した。

- 令和2年度単位認定講習会(岡山)は来年に延期する。時期・会場などは後日決定。講師等は当初原案通りとする。来年度開催予定の北日本支局での講習会は再来年度(2022年)に繰り延べて実施する。
- 令和2年度秋季展、併催「書道芸術院の書Ⅱ現代詩文」は予定通り開催する。審査委員候補公募出品も同様実施する。
- 会期中予定の表彰式、作品研究会(セントラル会場・10月11日午後)は混雑を避けて実施する。
- 祝賀懇親会は中止する。

アートサロン毎日「書道芸術院の書Ⅱ現代詩文」作品研究会(10月12日午前)は予定通り実施する。参加者を限定し混雑しないよう配慮する。

- 国際交流ウィーン展 本年開催は中止する。オーストリア・スロバキア 両国日本大使館は了解済み。

来年度の開催については両大使館と協議の上、再来年(2022年)2月第75回記念書道芸術院展開催、3月より記念事業として全国巡回展開催予定であるため、記念事業の一角を構成することも考慮しながら検討する。

・年会費の減免措置

新型コロナウイルスの蔓延の影響により、会員各位の経済状況が逼迫している方々も多く、以前の東日本大震災の被災が地域限定であったのに対し、今回はほぼ全国的に影響を及ぼしている。また、諸事業の中止、順延などによる予算執行残、前年度繰越金なども考慮し、会員の年会費を左記の通り減免する。

年会費減免措置(一律30%減とする。但し会報「書道芸術」誌代600円は据え置く。審候以上)

常任総務	4000円↓	2800円+誌代
総務	3500円↓	2450円+誌代
審査委員	3000円↓	2100円+誌代
審査委員候補	2000円↓	1400円+誌代
無鑑査	1000円↓	700円
名誉会員、参与会員の「書道芸術」誌代負担について		

これまで本院名誉会員、参与会員の

皆様には年会費免除の他に、本院会報として「書道芸術」誌を無料で贈呈してきたが、諸経費の高騰などにより本年9月号(713号)より購読希望による有料とさせていただきます。9月号よりの購読申し込み希望調査を行い実施する。誌代は1年間600円とし、本年のみ来年(2021年)3月号まで300円とする。来年度(2021年4月号)より年間購読として600円を納入していただく。名誉会員、参与会員の皆様にはご了解くださるようお願いいたします。

第74回書道芸術院展運営委員会 運営大綱、主要人事など決定

7月4日理事会に合わせ、第74回書道芸術院展運営委員会がやはり書面による審議を行い、展覧会運営大綱、特別賞選考委員・当番審査員、実行委員会組織などが決定した。

運営委員会決定を受け、展覧会開催要項印刷配布、各部組織が始動することとなった。ほぼ前回展と同様で作品サイズ、出品締切、搬入日などもあまり変更はなく開催されることとなった。

特別賞選考(春華賞、大賞など)は例年通り理事監事が担当する。無鑑査、一般公募担当当番審査員など一人一役の原則で担当していただく。

詳細は後日送付される第74回展開催要項にてご確認いただきたい。

毎日書道会主催「書の世界」Ⅱ書道を止めるなⅡ紙上展開催(応募を

本年毎日書道展開催見送りとなり、例年毎日書道展を目標に頑張ってきた皆さんの作品発表の場として、毎日新聞社と毎日書道会が主催する「書の世界」紙上展Ⅱ書道を止めるなⅡが開催される。主に会友・一般公募の方々を対象に積極的な参加を呼び掛けている。ご協力を。

- 作品サイズ小画仙半切以内(3×3)、全紙½、半切½、⅓など、未表装(マクリ)で出品。
- 出品無料

- 締切 8月20日(毎日書道会宛)
- 発表 10月初旬の毎日新聞紙上特集面にて入選作品を掲載。
- 審査 毎日書道会理事(代表者)

現代女流書100人展開催

4月日本橋高島屋で開催予定の女流展が会期・会場を移して開催された。

- 会期 7月22日～8月2日
- 会場 新国立美術館 1D

本院出品者

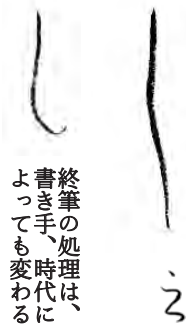
下谷洋子 飯沼恵鳳 石田和子
石田春窓 稲垣小燕 大井美津江
加瀬澄春 北村白琉 木村東舟
齊藤理舟 田中梨梢 塚越紅苑
(新進作家)

武山櫻子 千葉紅雪

かなの単体(1)

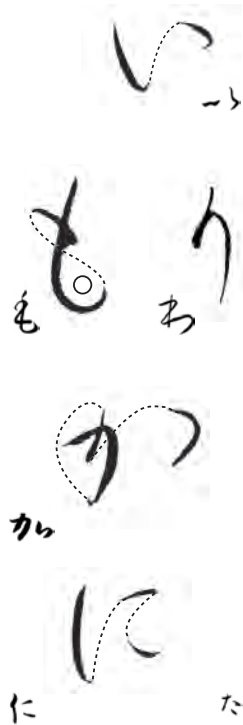
単体とは、続けずに一字ずつ独立した形のこと。かなの単体には、それぞれの母体となる漢字(字母)があります。平がなの基本的字形は、その字母となる漢字の草書化によるものですが、それぞれに固有の性質があるため、その形の特徴を知り、用筆法をも習得しなければなりません。

②点のあるグループ



終筆の処理は、書き手、時代によっても変わる

①紡錘形の線を基にしたグループ



字母(字源)一覽

左	為	和	以
幾	乃	加	呂
由	於	与	波
女	久	太	仁
美	也	礼	保
之	末	曾	部
恵	計	川	止
比	不	祢	知
毛	己	奈	利
世	衣	良	奴
寸	天	武	留
无	安	宇	遠

基礎基本講座

【古典からの導入】
平素我々は古典の臨書をしますが、古典で何を学び、どう発展させ現代詩文書に導入していくかについて、第一弾として楷書を中心に考えてみました。

【薦季直表】鍾繇 三国・魏

文帝に季直という人物を推薦した上表文である。横画や転折に三過折の筆法が見られ楷書の成立過程上、重要な古蹟である。楷書は漢代に芽生え(東牌楼漢簡など)王羲之らによる洗練を経て初唐で隆盛をきわめた。

・原帖



①写実的臨書



②発展的臨書



特徴

・「晋唐の書には情趣あり」の通り、素朴さ、叙情的な愛情と親

しみを覚える。木簡などにみられる自然児的未開な素朴ではなく、教養人の貴族的な素朴さである。

①写実的臨書

・字形について：扁平。横画はほぼ水平。

・線について：厚み、丸みを出すために濃墨で羊毛中鋒使用。羊毛の方が豊潤さがでる。

・運筆について：運腕大きくゆったりと筆を運ぶ。

※ベタベタした塗った線にならないように。その為には高処より筆をおろし、はじき出すように筆をあげると線に響きも出て活気づく。

②発展的臨書(筆は①と同じものを使用)

・現代詩文書で平仮名と調和させるため、行書的に書いてみた。字形の扁平さの中に太細のアクセントを少しつけてみた。厚みのある線は、清の劉石庵の書も参考になる。

・いろいろ発展的に展開させると楽しくなる。答えは一つではない。創作の苦しみ、醍醐味を経験してほしい。手本の丸うっしりでは進歩はない。自分で考えよう。



永見 史篁
(東京)



「切磋琢磨」

この度の審査会員昇格、大変光栄に存じます。いつも温かくご指導頂きました東福青篁先生に心より感謝申し上げます。また灯心会の皆様から日々刺激をいただき、切磋琢磨を重ねてきたことが、今日までの支えとなっています。今後も、初心を忘れずに自らの書を磨いて参ります。
(史篁)



木村 澄春
(奈良)

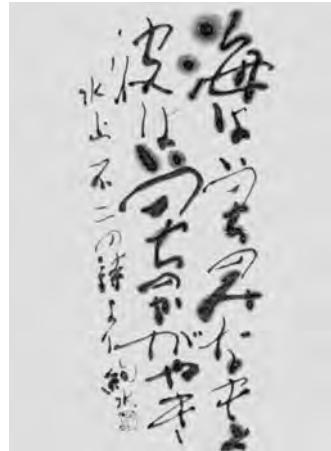


「啼」

「啼」大好きな字を書きました。何回かいても満足のいく作品になりません。リズム？遊び？試行錯誤の連続です。この度は審査会員に昇格させて頂きありがとうございます。諸先生方に、心より感謝しながら、精進して参ります。今後とも、ご指導をよろしくお願い申し上げます。
(澄春)



茂木 絢水
(宮城)



「水上不二の詩より」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。現在は地元元氣仙沼で書作に励んでおります。被災した地元で十分に芸術が享受できる環境を作るべく、自分自身の精進はもちろんのこと、書を学ぶ場作りにも力をいれて参りたいと思っております。いつもご指導くださる先生方、諸先輩方に深謝申し上げます。
(絢水)



坂田 華月
(鳥取)



「心画(シンガ)」

今回の審査会員昇格にあたり、温かく御指導下さる引田恵華先生、また山陰支局の皆様への支えがあればこそ、感謝致しております。揚子法言に「言は心声なり、書は心画なり」とあります。文字の形にはかり囚われず、自分の気持ちを表現することの出来る書を目指し、これを機にますます精進して参りたいと思っております。
(華月)



鶴田 恵子
(千葉)



「一意専心」

就職、子育て、海外生活と
何度も中断していた書道。帰
国後、市川蘭華先生の紹介で
再開。そして種谷萬城先生、
佐藤好美先生をはじめ諸先輩
の御指導のもと今回、昇格さ
せていただき心より感謝申し
上げます。

今後「一意専心」の決意
で更に精進してまいります。
(恵子)



本多 江燕
(奈良)



「生」

この度は、審査会員に昇格
させていただきまして有難うご
ざいます。幼い頃より筆を執り、
その時々思いを作品に表現し
てまいりました。今、新型コロナ
ウイルスで日々の生活が一変
し、改めて書を学ぶことがど
んなに大切な事が痛感いたしま
した。書との縁を大切に、心・
技ともに研鑽を重ね、心新たに
精進してまいります。(江燕)



樋井 鷹春
(大阪)



「母」

去年12月に逝った母を偲ん
で書きました。書くことを諦め
てはならぬと、陰ながらいつも
応援してくれていました。孝を
尽くし切れなかったけれど、師
である恩地春洋先生と母に審
査会員昇格の報告が出来ます
ことは、この上ない喜びです。
支えて頂きました全ての方々
に感謝申し上げます。本当に
ありがとうございます。(鷹春)



松田 藍華
(千葉)



「案此不疲」

種谷萬城先生に御指導を仰
いで20数年が過ぎました。色々
な事を教えて下さり経験もさ
せて頂いている間に学べる楽
しさを覚えました。お陰様で
今回の新型コロナでの外出自
粛も苦にならず、書く事の喜
びを改めて幸せと感じており
ます。「案此不疲」これからも
一層精進してまいります。
(藍華)



秋山久枝
〔群馬〕



「月照れば」

思いがけない会員昇格に驚きと、ずっしり重荷を感じつつ、「今」書ができる喜びを噛みしめ、感謝を忘れることなく一歩一歩精進していきたいと思います。

この作品は、以前、競書の課題にあったものです。あの優しい笑顔の東雲先生・五葉先生を思い浮かべながら……
(久枝)



宍戸雲水
〔宮城〕



「蝶夢の句」

この度は、審査会員にご推挙頂きありがとうございます。日頃より温かくご指導下さる尾形澄神先生、佐久間玉流先生、宮城野書人会の皆様改めて感謝申し上げます。

現代の言葉を用いて自己表現できるように今後も研鑽を重ねて参ります。ご指導のほどよろしくお願致します。
(雲水)



貫名桂峰
〔岡山〕



「心のゆとり」

コロナ禍の中で家にこもりがちですが、ゆとりを持った心で一歩外に出て見ると、素晴らしい景色に見えます。作品づくりにも通じるものを感じます。心にゆとりを持ち、初心を忘れず努力精進してまいります。
(桂峰)



佐藤花梢
〔青森〕



「萬徳莊嚴」

この度は、審査会員にご推挙頂きありがとうございます。た。

「仏のあらゆる徳が身をかざっていること。」という語句を刻しました。思い願った物には程遠く、道の厳しさを痛感しております。これからも、気持ちを新たに精進してまいります。
(花梢)

※9月号でも引き続き、新審査会員の紹介をさせていただきます。

古典鑑賞

枯樹賦 (唐 630年) ②

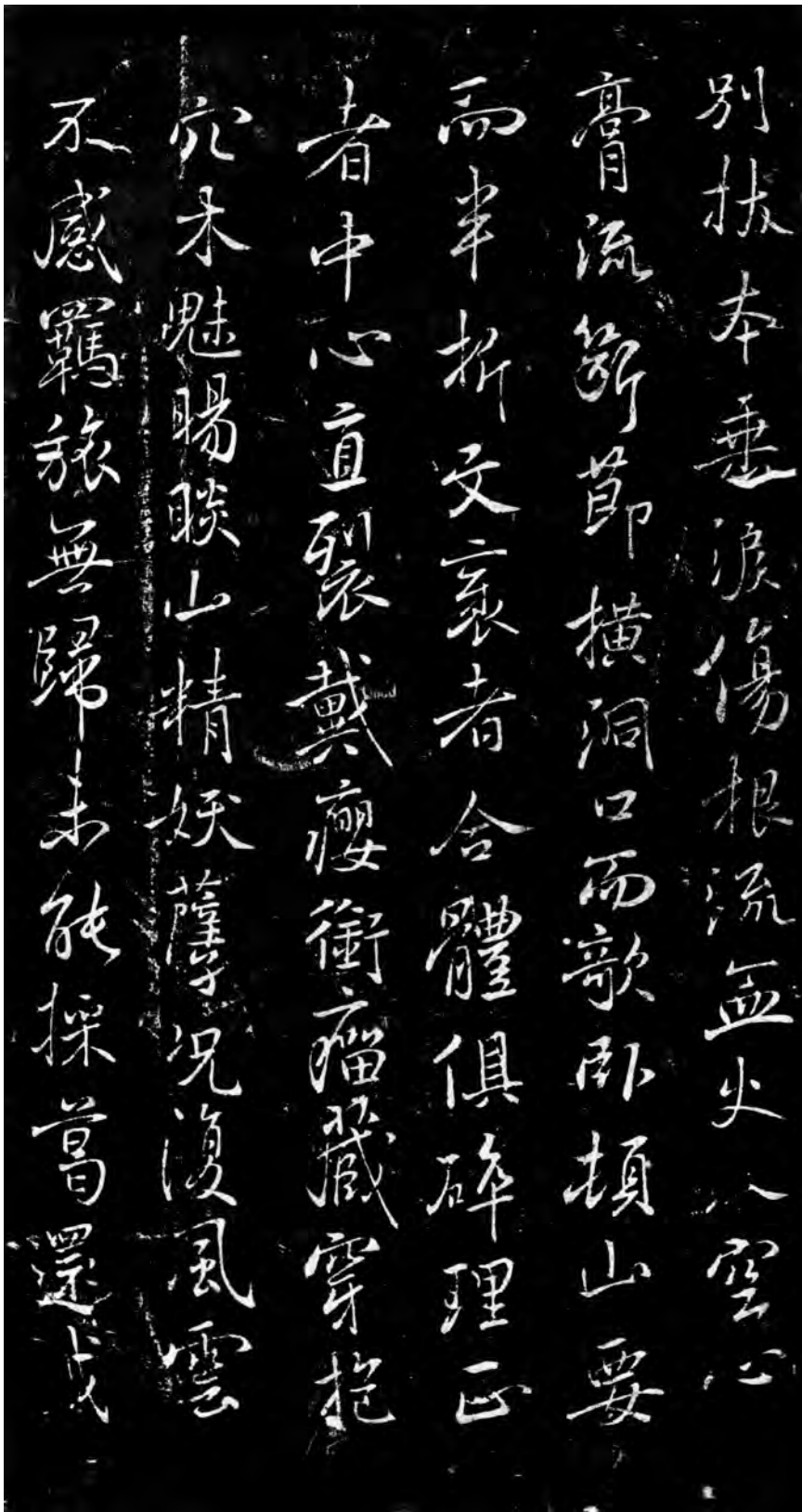
褚遂良

423

〈解説〉枯樹賦の書風は、王羲之の書法を継承しながらも、独自の境地に至っており、奔放でゆるぎない造形感覚と軽妙で情緒豊かな筆致が魅力である。字形は、右上がりの菱形が多く、縦長で胴がふくらんでいて、懐が大きい。一字の中に偏と旁、冠と脚などの大きさまや位置に変化をつけながら、太い線と細い線を組み合わせて、

一字構成にたくみなバランス感覚を見せている。線質はねばりが強く、弾力に富んでいるが軽やかである。また、俯仰法(筆を持つ掌を下に向け俯したり、上に向け仰いだりさせて書く方法)などの用筆が多く見られる。筆は抑揚緩急の変化をつけながら気脈の貫通に留意して、空間の運筆を大きくゆっくり運ぶことが大切である。

(編集部)



(掲載図版75%に縮小)

別。拔本垂淚。傷根流血。火囚空心。膏流斷節。横洞口而歛臥。頓山要而半折。文衰者合體俱碎。理正者中心直裂。戴瘻銜瘤。藏穿抱穴。木魅腸眩。

山精妖孽。况復風雲不感。羈旅無歸。未能採葛。還感。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載部分以外も可。
(B. 小品の部—半切7/8以上半切以内 (A・B縦横自由))

古筆鑑賞

197

いしやまきれいせしゅう
石山切伊勢集
(伝藤原公任)

②

〈よみ〉
としふれどわすられはてぬ人のよは
ころとめてぞ猶きかれける

恋しきにしめてふことはきこえぬを
よのためしにもなりぬべきかな

かにひの花につけて
花のいろのこきをみずとてこきたるを
おろかに人はおもふらんやぞ

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

〔半紙普通判(料紙可)・縦長に使用〕
別紙を裁断して貼付も可。半紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
B.A. 大作の部 毎日展審査委員・会員サイズ以内、2×6尺 全紙も可
B. 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由)
△いずれも左記の掲載以外も可。V

わらびを人にやるとして
わがためになげきこるともしらなくに
なにゝわらびをたきてつけまし



※掲載図版は80%縮小

(梅次記念館蔵)

〔解説〕「石山切伊勢集」は書の優美さ、
工芸技術の粋を尽くした料紙の華麗さな
ど、王朝貴族趣味を余すところなく伝え
てくれる作品として知られている。その
料紙は、一紙ごとに斬新な趣向がこらさ
れているが、とりわけ唐紙、陸奥紙、厚
様、薄様、さまざまの色(白・白茶・藍・
薄茶・茶など)の紙を用いての継紙(切
り継ぎ・破り継ぎ・重ね継ぎ)の技法は
圧巻である。さらに、その上に金銀泥で
蝶、鳥や折れ枝などの下絵が描かれてい
る。この美しい料紙に二首一行書きの和
歌を高く、詞書を少し低く下げて書写
されている。わずかに散らし書きも見ら
れる。端正な字形、洗練された美しい連
綿など全体的に気品に富んだ穏やかな趣
をうかがわせる。一字一字が丁寧な運筆
で書かれ、線に厚みがあることも特徴の
一つと言える。「伊勢集」の筆者は不明。
同じ「本願寺本三十六人家集」の中の「斎
宮女御集」「友則集」および伝藤原公
任筆「業平集切」と同筆とされる。
(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。

○○臨(押印のみも可)

漢字規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

半田藤扇選書



温之以妍潤

よみ (之を温むるに妍潤を以てす)

書体 自由

習い方解説 (五)

半田藤扇

温之以妍潤 (孫過庭「書譜」)

(之を温むるに妍潤を以てす)

しつとりとしたあでやかさによってぬくもりをもたせる

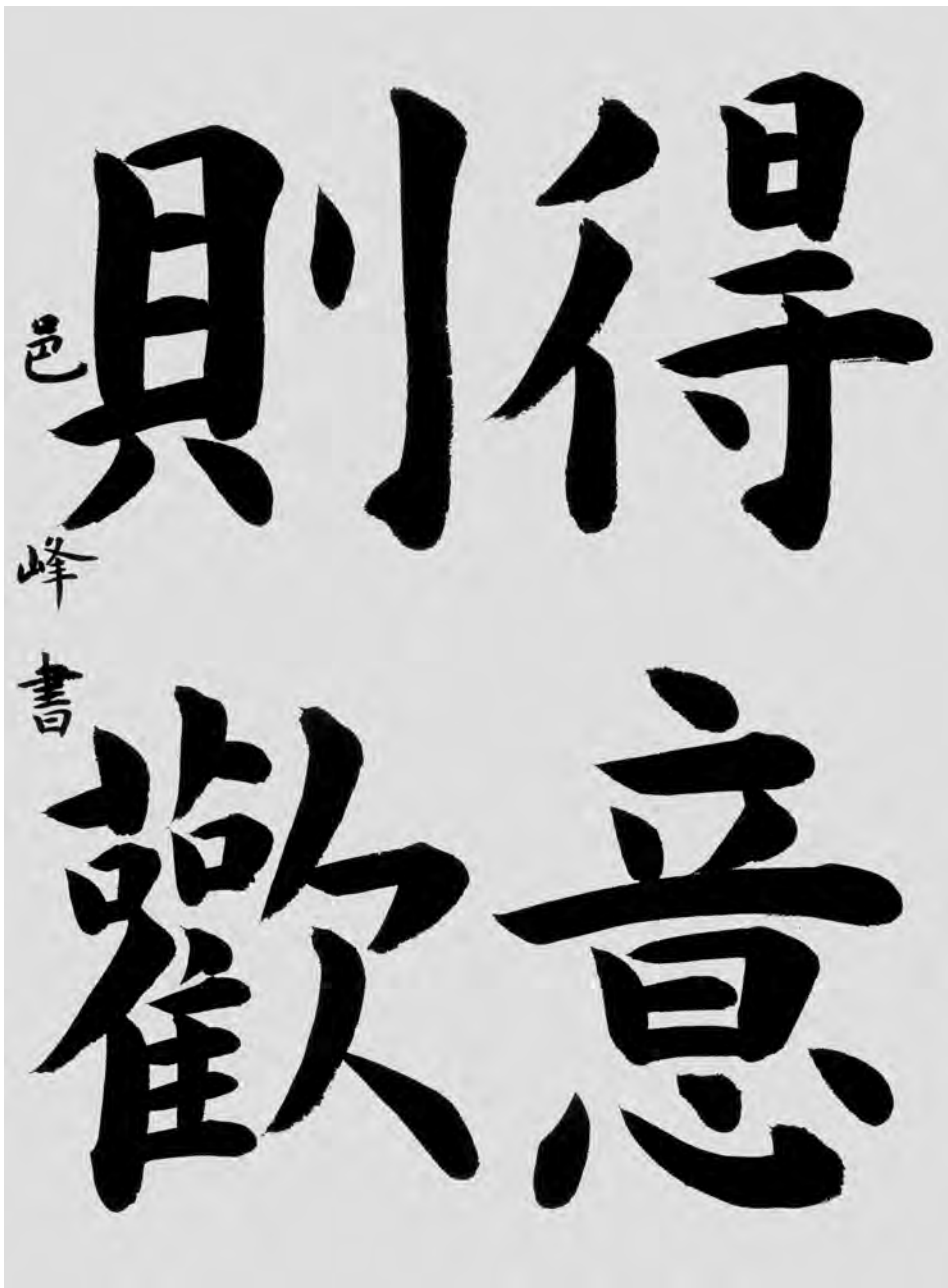
(書が精神の芸術である)

今月は、懷素(唐代) 自叙帖の書風を思い出しましょう。

※上記の作は、運筆速度はかなり速いです。造形を頭の中に描き、一気に3文字・2文字と書きあげて下さい。それに挑戦するには、長鋒筆が適しています。墨もちが良くないと流れが生まれません。

※左記〈参考作品〉は、良寛の書風をとり入れました。細く繊細で自然美のある書を表現。点の打ち方に趣がある。羊毛筆使用。





得意則歡

よみ（意を得れば則ち歡ぶ）

書体Ⅱ楷書

習い方解説 (五)

大平 邑峰

得意則歡 (袁喬之)
(意を得れば則ち歡ぶ)

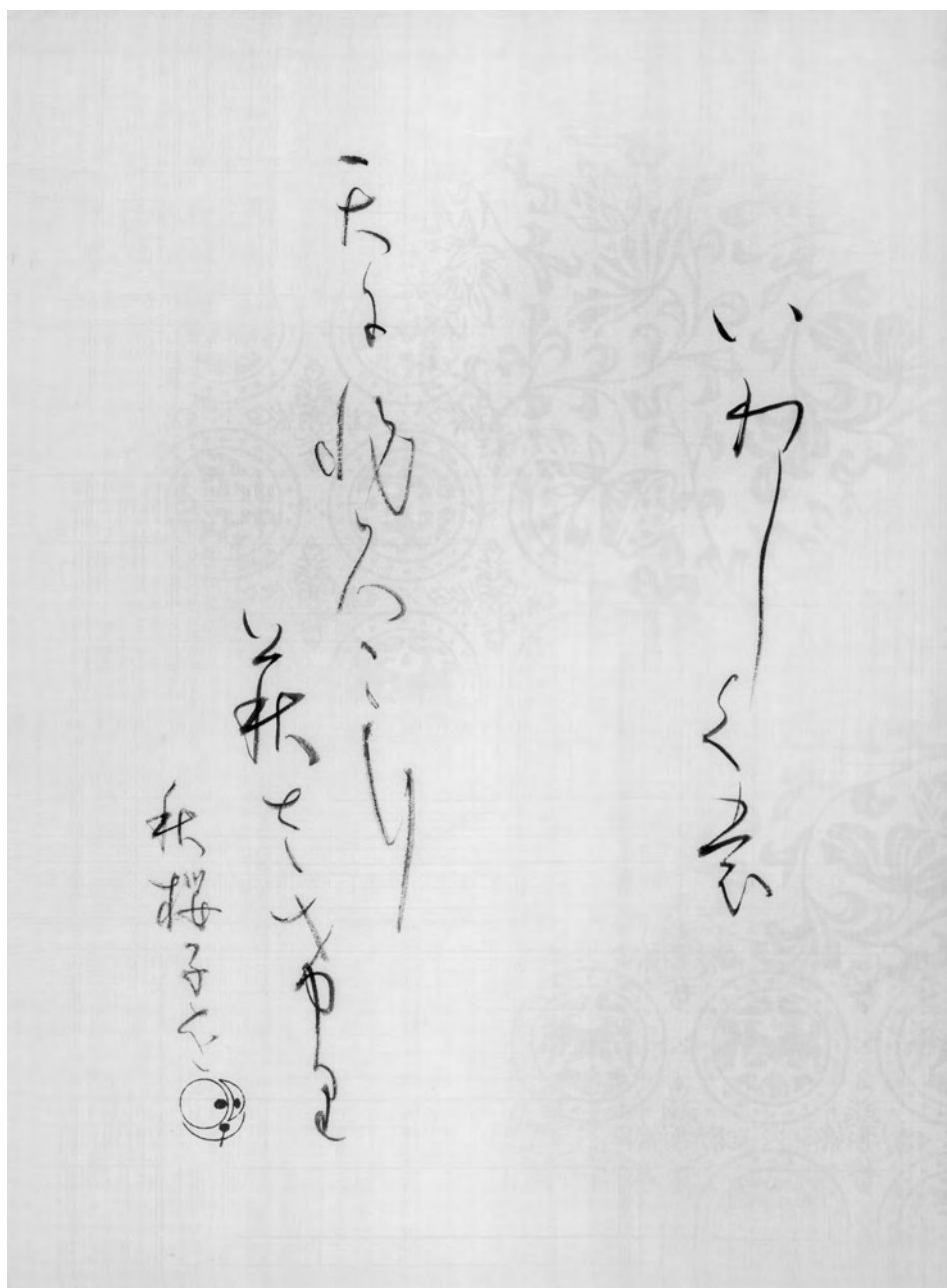
楷書は南北朝の時代から隋代を経て唐の初めに完成されたといわれます。隋代の楷書を見るとそれまでの書きぶりが融合・洗練されて「初唐の三大家」に繋がっていく様子がよくわかります。墓誌銘等魅力的な書資料がたくさん残されています。是非あたってみてください。

今月は、その完成された「初唐の三大家」の書をイメージしながら書いてみました。向勢で柔らかさが特徴の孔子廟堂碑の雰囲気であるの少ない整った字形を目指しました。一点一画を大事にしながらテンポよく書き進み、硬くならないようにしましょう。子どもへの指導に使い慣れた兼毫筆、やや濃いめの墨で書きました。字形を極めるには枚数をこなしましょう。

＊お詫び
先月号(Ⅳ)の大平 邑峰先生のお名前に誤りがありました。正しくは大平 邑峰です。訂正してお詫び致します。

かな規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

石井明子選書



よみ方 鱗(いわし)雲(久裳)天に(尔)ひ(非)ろ(ごり)は(ぎ)萩(咲)け(希)り(里) 秋桜子を

創作

習い方解説 (二)

石井明子

鱗雲天にひるごりはぎ咲けり
(水原秋桜子)

秋空には鱗雲が広がり、野には萩が咲いている爽やかな情景の句です。鱗雲とはぎは共に秋の季語で「季重なり」の句ですが、そのことは全く気にならず、心に響きました。

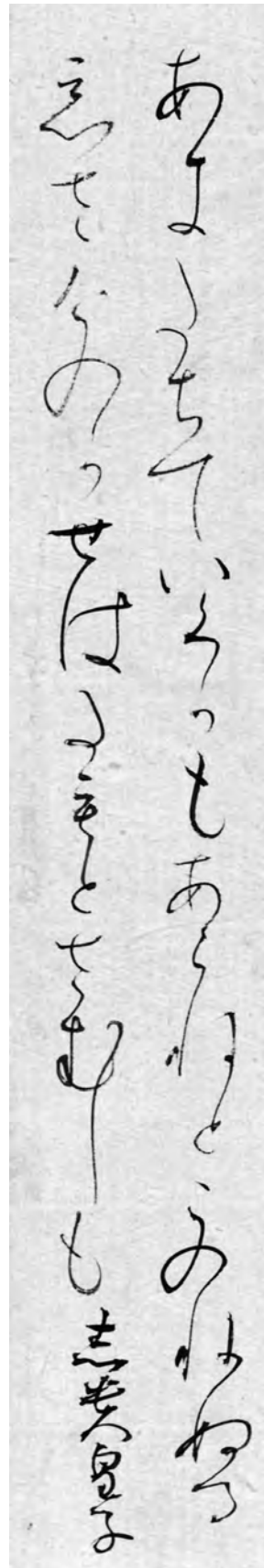
基本17文字なので、短歌を表現するときとは異なった要素が求められます。元々成り立ちの違う短歌と俳句を字数の多寡だけと思わないことです。私は、より余韻が大事なのではないかと考えます。「余韻を楽しむ」という言葉通り、いい感じが残ることが重要です。そのために、込める思いをより深くしてみましよう。

短歌のときより、やや文字を大きくし、紙面が貧弱に陥らないよう心がけて下さい。結果、さらりと見えると何よりです。

かな規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方
あき(文)た(多)ちていく(久)か(可)もあらねどこのねぬる
あ(悪)さけ(介)のか(可)ぜはた(多)も(毛)とさむしも志貴皇子

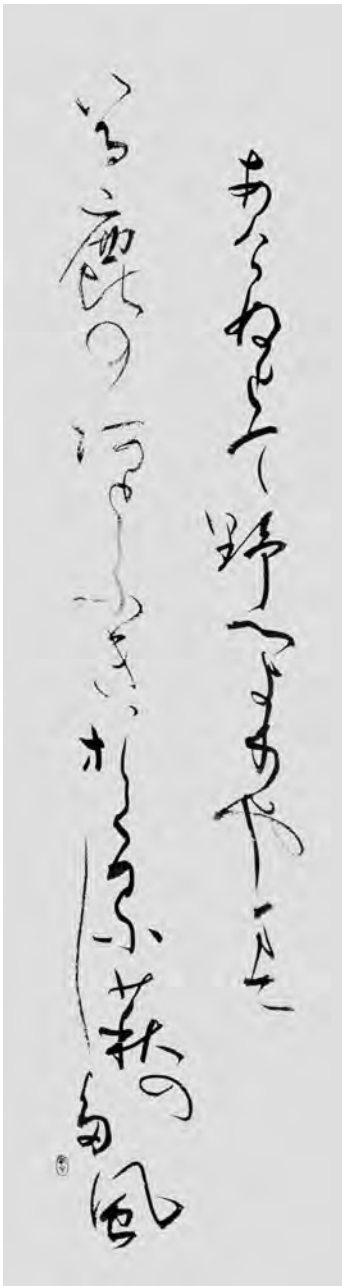
習い方解説 (二)

小島 孝予

明けぬとて野べより山(や)方(かた)に入る鹿の
あと吹き送る萩の下風
(源通光「新古今和歌集」)

かな条幅規定 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

小島 孝予 選書



よみ方
明(あ)け(介)ぬとて野(の)べより(利)山(や)方(かた)に(こ)入(い)る鹿(か)の

あ(阿)と吹(ふ)き送(り)於(お)久(く)る(累)萩(はら)の下(した)し(多)風(かぜ)

創作

和歌の3行書です。流れにインパクトを与える位置に野・鹿・萩等を置き、その周囲には多画の変体がない文字を置きました。また墨色・渴筆も大事です。特に渴筆は筆圧や直筆・側筆による穂先の開閉をみながら速度を押し抑揚をつけて書きます。流麗な構成は、生きた線質によってこそ輝くのです。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書



床前月光 疑是地上霜 舉頭望山月 低頭思故郷
(床前月光を看る、疑うらくは是れ地上の霜かと。頭を挙げて山月を望み、頭を低れて故郷を思う。)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書



一池雲錦清閑 (一)池の雲錦清閑 (王梅溪)

書体||自由

習い方解説 (五)

種谷萬城

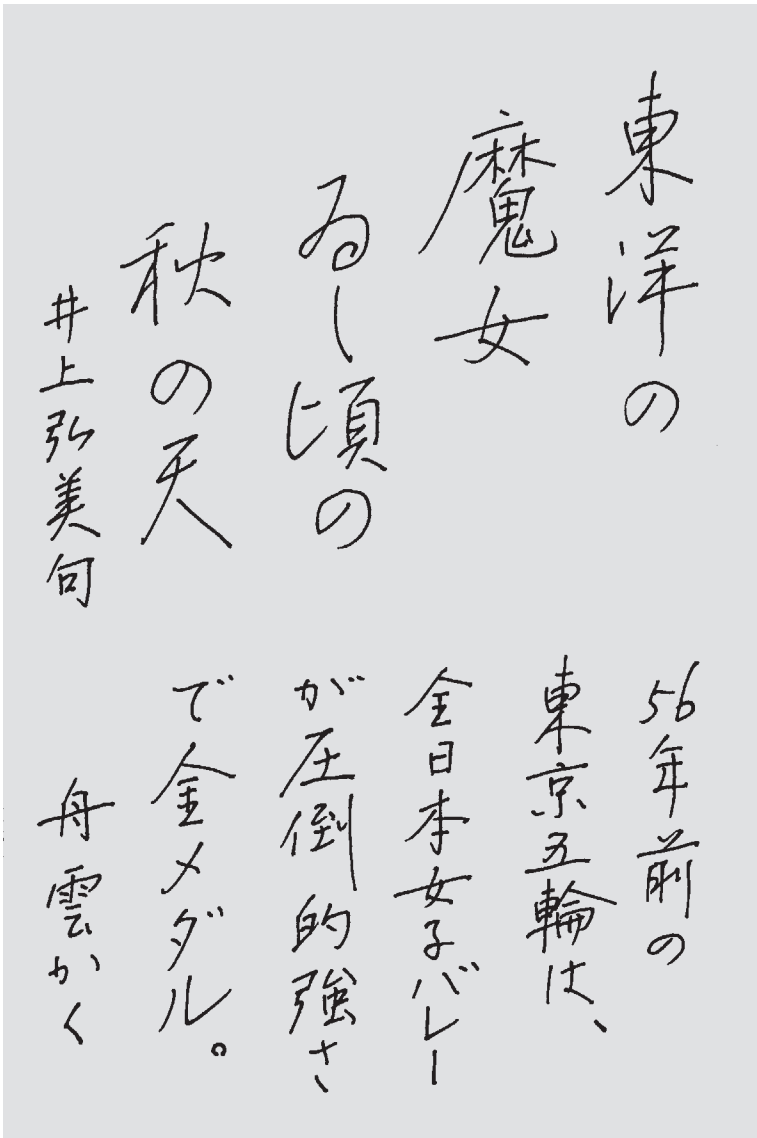
今月は草書が主の行草書にしました。月さえる静かな夜の望郷の思いを詠う李白詩「静夜思」が題材。澄みきった空気をイメージし、明の董其昌を参考に、細身の柔らかな線で、軽快な筆法で書きました。王羲之書法を追求し、米芾の理念を継承し、習気を脱却した天真爛漫な境地を理想に掲げた董其昌の行草書は魅力的です。

※タテ形式に限る

習い方解説 (五)

小竹石雲

今回は行草一行書きの基本形で起承転結を意識した参考手本です。初心者には要求が高いかもしれませんが以下のことに気をつけて挑戦してみてください。
・全体の力配分を考える。(文字の大小、線の太細、強弱など)
・墨継ぎを工夫する。(一字ずつ墨をつけない)
・流れをつけるための文字造形を考える。



◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

注意 用紙サイズ(14.8×10cm)を守ってください。

習い方解説 (五)

広瀬舟雲

「東洋の魔女」は、一九六一年の欧州遠征で二十二連勝した日紡日塚女子バレーボールチーム(監督は大松博文)につけられたニックネーム。一九六四年東京五輪では同チームのメンバーを主体とした全日本として出場し、ソ連に勝ち優勝。この名を世界にさらに轟かせた。前回の東京五輪は十月の開催であった。今回は、俳句とその解説文の混合である。最適な配置・配列の工夫を望む。

東洋の 56年前の
魔女 東京五輪は、
あし頃の 全日本女子バレー
秋の天 が圧倒的強さ
井上弘美句 で金メダル。

拝復 敬白 残暑 吹く風は
拝復 敬白 残暑 吹く風は

立秋とは名ばかりの暑さが続きます
立秋とは名ばかりの暑さが続きます

三浦鄭街

(楷書) 拝復 敬白 残暑 吹く風は
(楷書) 立秋とは名ばかりの暑さが続きます

(行書) 拝復 敬白 残暑 吹く風は
(行書) 立秋とは名ばかりの暑さが続きます

基本用語 「拝復」返信の場合の頭語として使用。結語は「敬白」など。

(掲載手本90%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

ホー！プ作品 各部総評

NO. 710

ペン字部 師範 佐藤 祥扇

一貫した緩急のある豊かな筆致によって、深みと躍動感あふれる作となった。日頃の鍛錬に敬服。
◎ペン字部総評 美しい字形は勿論のこと、天地左右・行間の余白のバランスを十分考慮して、流れのある立体的な作品を。(孝子評)

聖火はオリンピアの
神殿跡で採火。そと
日本へ「復興の火」と
しくまず被災した東北
の地に灯る。 祥扇書

漢字条幅部 師範 高木 竹壽

木簡隸風の特徴をよくとらえて
バランスよくまとまる。太い波磔
が紙面にリズムを醸し出す。

◎漢字条幅部総評 条幅部は上下
級共書体自由である。多様な表現
への挑戦の積み重ねが実力を養う
基礎となる。(大雲評)



前衛書部 特選 安藤 楊風

曲線に絡めた作意が斬新、技術
もあいまって全体が心地よい。更
なる境地に期待大。

◎前衛書部総評 テーマをしっか
り決める傾向が窺えるので、更に
構想に傾注を願う。(慧香評)



かな条幅部 師範 岩田 博子

過剰な作意のない線質は見る側
に何かを強いることがなく、鑑賞
を楽しくさせる。格調高く美しい。

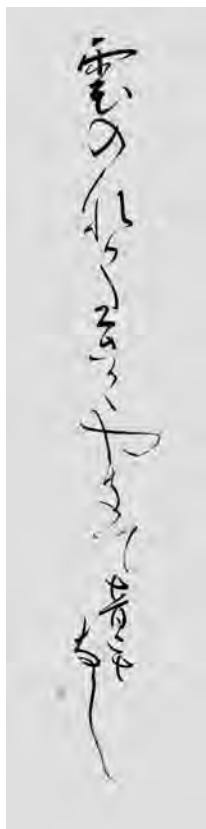


◎かな条幅部総評 布置に決めて
を欠いた作多く残念。字粒、墨量
等は過多でないバランスを望む。
郵の誤字多出は惜しい。(明子評)

現代詩文書部 特選 圓尾 聰春

この句からかすかな道標を感じ
た。句に呼応する表現があり、深
いイメージを与えてくれる。

◎現代詩文書部総評 語句の印象
と作品の一体感を目ざして楽しんで
書作して下さい。(掃雪評)



かな部 師範 工藤 山房

運筆の緩急のリズムが逸品です。
筆先を生かして墨の変化も幽艶。
料紙に助けられたがやゝ小さい。
◎かな部総評 古筆調の手本だっ
たためか、概ね好調でしたが、こ
こからどう自分のものを創るかが
求められます。期待ノ。(洋子評)



漢字部 師範 後藤 良泉

リズムカルな筆さばきと魅力的
で豊かな表現力が群を抜く。紙面
に漂う書き手の呼吸が伝わる。

◎漢字部総評 多彩な作品に出会
えた。響きある線質は魅力的、奥深
い挑戦の一つです。多種多様な文
房四宝を上手に活用を。(藤扇評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 佐藤菜扇 奥田瑞舟

小品の部

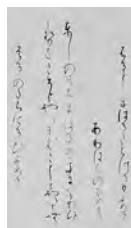
部分拡大

臨書 (英峰) 吉瀬彩雨 「高野切第一種」



吉瀬彩雨臨

35×135cm



◆濃墨で紫に金の砂子の料紙に、高野切第一種の特徴である緩急抑揚の変化が見事に表現されている。

(瑞舟評)

前衛書 (四谷) 三森慧香 「無題」



三森慧香書

35×135cm

◆横長の紙面に造形を創意工夫し、絵画的な独特の世界観を持った作品となった。

(仙草評)

臨書 (八街) 大日向幽香 「雁塔聖教序」



大日向幽香臨

135×34cm

◆線に抑揚があり、配字のバランスと余白が美しい。原帖をよく観察し呼吸乱れることなく落款まで見事にまとめた臨書作。

(菜扇評)

現代詩文書 (植松) 梅田紅雨 「美果の句」



梅田紅雨書

49×70cm

◆大きく二集団で余白の効果を生かした作。特に書き出し一行が鮮烈で強い印象を与える。大作期待。

(大雲評)

総出品点数 82点

創作の部(49点)

漢字 1 3点

かな 1 5点

現代 1 3点

前衛 1 7点

篆刻 1 1点

臨書の部(33点)

漢字 1 26点

かな 1 7点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕 大雲 柿沼 彩香

〔かな〕 卯月 木村 関泉

AI 藤村 昌子

〔現代詩〕 花笠 高橋 清琳

四枝 大友 四峰

六戸 珠葉

四枝 塚田 美翠

掃雪 大西 香蘭

蒼香 高橋 蒼香

〔前衛〕 青蓮 大町 菜月

〔篆刻〕 関口 天峰

〔漢字の部〕

千葉 安藤 叙孝

千葉 松村 秀扇

墨縁 井戸端 琉泉

千葉 平野 笛舟

澄春 土屋 恵仙

〔かな〕

大雲 松永 香秋

千葉 松重 翠景

大作の部

漢字 (もくせい) 青木藤漣 「登楼」



青木藤漣書

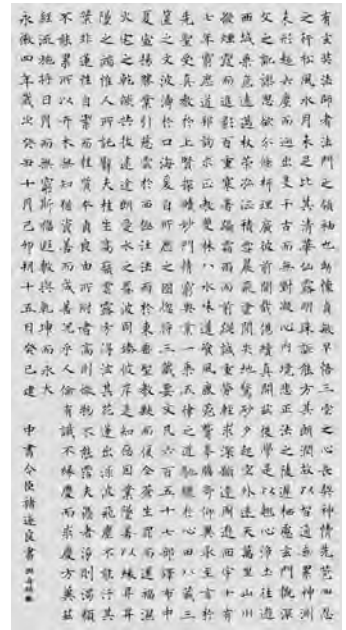
45×172cm

◆横作品の紙面構成安定感あり。スケールが大きく、洗練された線が魅力的。潤濁のバランスも美しい。

(菜扇評)

臨書 (大雲)

江本興舟
「雁塔聖教序」



江本興舟臨

135×70cm

前衛書

(篤信) 三浦朱鳳 「猛夏」



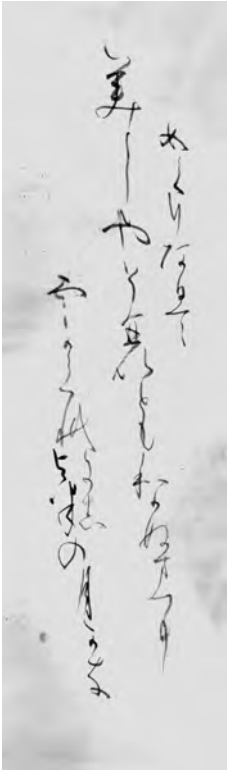
三浦朱鳳書

180×60cm

◆大胆で圧倒的な筆致で、伸びやかな書線の躍動感溢れる頼もしい作品となっている。落款に配慮を望む。(仙草評)

かな

(玉松) 橋本紅霞 「めぐりあひて」



橋本紅霞書

178×51cm

◆グレー系に砂子の美しい料紙に、潤濁巧みに配置された構成も自然で、日頃の鍛錬の大切さを思う。(瑞舟評)

部分拡大

有玄法師者法門之領袖也... (Text from the 'Yantaishōkyōjū' calligraphy, showing a close-up of the dense vertical characters.)

(大雲評)

創作の部(39点)

- 漢字 5点
- かな 5点
- 現代 10点
- 前衛 19点
- 臨書の部(18点)
- 漢字 16点
- かな 2点

総出品点数
57点

〈特選候補者〉

- 創作の部
- 漢字
- 秀恵 阿部 雅悠
- 大拙 大庭 幸石
- 「かな」
- 水壑 伊澤 香雨
- 「現代詩」
- 炎佳 佐藤 華炎
- 大拙 畠中 成山
- もく 西川 藤象
- うる 橋 由華
- 「前衛」
- 月華 久光 総一郎
- 白珠 石澤 徳子
- 紅瑠 栗原 りか
- 白珠 伊藤 二千翔
- 臨書の部
- 漢字
- 紅瑠 相澤 敦子
- もく 森田 藤谷
- 千葉 竹浪 叙舟
- 英峰 佐藤 桂香
- 「かな」
- AI 清水由紀子

漢字研究部
(雁塔聖教序)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



伊藤照子

漢字研究部 特選 伊藤照子

原本をよく観察し、終始一貫乱れなく書きあげられています。俯仰法を駆使し、丹念な運筆に感じ入ります。反面忠実さは伝わってくるのですが、もう少し広がりがあればより一層素晴らしい作となるでしょう。

◎漢字研究部総評

「雁塔聖教序」は俯仰法を用いて弾力のある線質で、細線の変化が絶妙であり、細い結

体ながら強さと広がり特徴です。しかし、出品作には厚味のある線質のものが多く、また細さを意識するあまり弱々しいものも見受けられました。臨書するにあたってはまず字形を正確に捉え、その上で用筆法を理解して書きこむことが大切です。そうすることで自ずと文字のリズムをつかむことができます。作品制作に繋がっていきます。

萬里山川

空外迷天

積雪晨飛

積雪晨飛

撥煙霞而進影

積雪晨飛塗間

積雪晨飛塗間
失地驚砂夕起
空外迷天萬里
山川撥煙

積雪晨飛

空外迷天萬里

積雪晨飛塗間
失地驚砂夕起
空外迷天萬里
山川撥煙

積雪晨飛

積雪晨飛塗間

驚砂起夕

塗間失地

空外迷天萬里

進影百重寒暑

積雪晨飛塗間
失地驚砂夕起
空外迷天萬里
山川撥煙

撥煙霞而進影

寒暑躡霜

空外迷天萬里

積雪晨飛塗間

積雪晨飛塗間
失地驚砂夕起
空外迷天萬里
山川撥煙
煙霞而進影百重
寒暑躡霜

百重

百重寒暑

琴子清 惠子 江彩 明惠 瑠美

龍代子 信幸 美尚 武子 昌子

江雨 甘雨 永峰 春奈 幽彩 純奈

美和 美梢 麻一 唯右

●篆刻

【九月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

- ① 摹刻 (フ) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印) のコピー添付
- ② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
○創作、摹刻とも応募は一人一点。

8月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記 並びに落款(氏名)を入れる。

710号篆刻優秀作品

篆刻



「臣光」

特選 小沢華仙
確りと臨摹されている。形態と共に運刀の佳さが目に付いた。

選評 後藤大峰

創作



「朗暢」

特選 伊藤祥花
「朗暢」の二字、構成が見事、印面の下部の朱が効果的でした。

◎篆刻部総評

篆刻、創作共に質の佳い作品を多く応募頂きました。特に創作に於いて構成に秀でた作品が有りました。次回も期待致します。(大峰評)

(篆刻)

附中大雲	織田真奈美	特選	大雲	小沢華仙	秀作(60音)	洞書	安藤楊風
蘇我磯水	神谷雲卿	大雲	書游	高武片岡	長島弘文	大雲	高武片岡
遊雲	久保村南	香	花	須賀澤一	高橋清琳	吉原清麗	清麗
成田中川	研治	入選(60音)	花	須賀澤一	高橋清琳	吉原清麗	清麗

(創作)

唯一	阿部祥越	特選	石心	伊藤祥花	秀作(60音)	紅苑	相川治舟
仙台	大沼樵峰	月華	小映	浅野黄扇	生大	炎佳	坂本皓山
芳蘭	佐々木青霞	富見	野木	紫蘭	大雲	関口天峰	天峰
四枝	塚田美翠	入選(60音)	大雲	関口天峰	高橋	天峰	天峰

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和二年七月二十五日 印刷
令和二年八月一日 発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七二二号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田一―一六―一七
東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送料

一か月の購読部数が
1部～9部までの一回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和二年七月二十五日印刷
令和二年八月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 発行人 辻元洋一(大雲)
発行所 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社
公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―一七
電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替 〇〇一四〇一三三〇五八
http://www.jins.co.jp/shogai/